

京極読書新聞 <第63号>

発行日 平成26年12月1日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

『平家物語』京都史蹟巡り

『平家物語』を読む会 構成・文：村山功一／写真・解説：小原彦也

この度、わたしたちのメンバーである小原彦也さんが京都を訪れると聞き、それでは『平家』の史蹟を何箇所か……と、厚かましいお願いをしました。多忙なスケジュールを縫って巡っていただいた史蹟を紹介します。

*本稿は、11/7の定例会で多数の写真とともに、小原さんに解説していただいたお話をもとに構成したものです。「平家」の魅力とともに、歴史のロマンを楽しんでいただければ幸いです。



1. 「寂光院」

寂光院はいうまでもなく、建礼門院徳子（平清盛の娘・安徳天皇の母）が壇の浦から生還の後、失意のうちに余生を送ったお寺です。『平家物語』では、建礼門院（以下「女院」）はここで生涯を終えたとされ、一般の認識もおおむねそのように理解されています。しかし、これについては現在でも諸説があり、確定されていません。〈女院が亡くなったのは寂光院ではない!〉と主張する代表が、角田文衛氏※の諸論考です。今回は、この角田氏の論考に従って、女院の足跡を辿ってもらうことにしました。

それはともかく、女院がここ寂光院で過ごしたことは間違いなく史実です。そこで、まずは平安の昔に思いを馳せながら、境内と周辺を見て回ることに。

◆本堂 <写真①>

平成12年、放火と思われる火災で焼失し、同17年再建されたもの。史料に基づき忠実に復元されているという。

◆庭園

本堂西側に広がり、ほぼ『平家』灌頂巻「大原御幸」に描かれた当時の面影をそのまま留めているという。

*建礼門院御庵室跡 <写真②>

庭園の上方、本堂のほぼ真横に位置する。女院が日常起居した庵室の跡とされる石碑が建つ。



※角田文衛（つのだ・ぶんえい）

元平安博物館（現・京都文化博物館）館長。文学博士。著書に『平家後抄』『王朝の明暗』など多数。



京極読書新聞<第64号>は
1月15日発行予定です。

2ページ目へ
続きます

(寂光院・庭園 続き)



③

みぎわ
 ＊汀の池・汀の桜 <写真③,④>
 大原に御幸された際、御白河院が詠んだ《池水に汀の桜散りしきて波の花こそさかりなりけれ》の御製に由来する。



④

＊千年姫小松・諸行無常の鐘楼 <写真⑤>
 「大原御幸」に描かれている。千年姫小松(ご神木)も遂に平成16年夏に枯死したという。



⑤



⑥

すいたい あわのないし
 ＊翠黛山・阿波内侍ら侍女の墓 <写真⑥>
 女院や侍女たちが仏前に供える花を摘んだ山。本堂正面に位置する。その麓には女院に仕えた阿波内侍、大納言佐(だいなごんのすけ)など、侍女たちの墓がある。

＊臈の清水 <写真⑦>
 参道途中にある泉。女院が自らの姿を映したと伝えられている。



⑦



⑧

しばづけ おはらめ
 ＊紫葉漬と大原女 <写真⑧>
 京都を代表する漬物、紫葉漬は女院一行が質素な生活のなかで考案したもの。また、阿波内侍たちが芝刈りに出たときの衣裳が今に伝わる大原女姿の原型。その由来を書いた石碑も立っている。



にしのみささぎ

◆建礼門院 西 陵 <写真⑨>

寂光院本堂に通じる参道のやや東寄りを登ると、本堂の裏山に至る。そこに女院の陵墓とされる「建礼門院大原西陵」がある。宮内庁管轄のこの陵墓は、『平家』の所伝をほぼそのまま“史実”と認定した明治政府により、明治9年に建立された。五輪塔を持つ仏教様式の陵（みささぎ）は、きわめて珍しいという。

寂光院で『平家』世界を堪能したあと、三千院周辺に立ち寄りました。のどかな風情の寂光院に比べ、東側のこの地域には天台宗の大きな寺院が立ち並んでいます。その中心が「三千院」です。

2. 「三千院」周辺

三千院は直接『平家』に関わる史蹟はありませんが、その登場人物である熊谷次郎直実にまつわる伝承がありました。



◆熊谷鈍（なた）捨ての藪 <写真⑩>

一の谷の合戦で平敦盛を討ち取った熊谷は、世の無常を感じ武士を捨て出家し、法然上人の弟子になる。文治2（1186）年、法然と他宗派の高僧たちが三千院の北「勝林院」<写真⑪>において宗論を闘わせることになる。世にいう“大原問答”である。この時供をした熊谷は、尊崇してやまない法然がもしこの論争に敗れたら論敵を討ち取ろう、と鈍を隠し持って従った。

三千院の前まで来た時、法然はこれを見咎め切々とその非を諭したため、熊谷はそれを傍らの藪に捨てたという。その伝承を示す石碑。



◆法然上人腰掛けの石 <写真⑫>

勝林院法華堂前には、法然が休憩したという石が残る。



◆呂川・律川 <写真⑬>

三千院の伽藍を挟んで流れる清流が呂川と律川である。「呂」も「律」も雅楽の音調のこと。呂音と律音が乱れると楽（がく）を成さないことから、のちに「呂律（ろれつ）が回らない」という言葉ができたという。



湧学館所蔵の「マッサン」本 あれこれ



H24余市の文学をめぐるバスの旅
余市ニッカウヰスキー博物館

NHK朝の連続テレビ小説「マッサン」の放映開始にともない、長らく絶版だった「竹鶴政孝とリタ」関連の本が、今、爆発的に再発行されています。なんともうれしい限り。長年探していた「リタの鐘が鳴る」も今回で湧学館・北コレクションに合流しました。この他、湧学館には平成24年「余市の文学をめぐるバスの旅」用に作成した「余市文集」などもあります。マッサンとリタの世界を存分にお楽しみください。

	書名 (サブタイトル)	著者名	出版者	請求記号
1	ウイスキーと私	竹鶴政孝/著	NHK出版	H588.5 タケ
2	琥珀色の夢を見る (竹鶴政孝とリタ ニッカウヰスキー物語)	松尾秀助/著	朝日新聞出版	H588.5 マツ
3	竹鶴とリタの夢 (余市とニッカウヰスキー創業物語)	千石涼太郎/著	双葉社	H289.1 タケ
4	竹鶴政孝とウイスキー	土屋守/著	東京書籍	H588.5 ツチ
5	ヒゲのウヰスキー誕生す (日本で初めてウイスキーをつくった男 竹鶴政孝物語)	川又一葉/著	アサヒビール株式会社	HF カワ
6	望郷	森瑤子/著	角川書店	HF モリ
7	マッサン Part 1 (連続テレビ小説)	羽原大介/作	NHK出版	H778.8 マツ
8	マッサン 上 (NHK連続テレビ小説)	羽原大介/作	NHK出版	HF ナカ
9	マッサン語録 (ニッカ創業者・竹鶴政孝と妻リタの生きた道)	菊地秀一/著	宝島社	H289.1 タケ
10	「マッサン」と呼ばれた男 (竹鶴政孝物語)		産経新聞出版	H289.1 タケ
11	マッサンとリタ *児童図書	川嶋康男/著	汐文社	H289 タケ
12	マッサンとリタ (ジャパニーズ・ウイスキーの誕生)	柳ノブ・チエックラド/著	NHK出版	H289.1 タケ
13	マッサン流「大人酒の目利き」 (「日本ウイスキーの父」竹鶴政孝に学ぶ11の流儀)	野田浩史/著	講談社	H588.5 ノタ
14	リタの鐘が鳴る (竹鶴政孝を支えたスコットランド女性の生涯)	早瀬利之/著	朝日新聞出版	H289.1 タケ
15	わが道をつらぬく ウイスキーを作った竹鶴政孝	合田一道/著	北海道科学文化協会	H281 キタ

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

